

使命

2024年、令和6年がスタートしました。生徒の皆さんは、元日のテレビ放送が突然、一斉に地震速報へと切り替わったため驚いたのではないのでしょうか。どの局のアナウンサーも同じような内容を繰り返し視聴者に訴えていました。「津波が来ます。早く逃げてください。東日本大震災を思い出してください」そして、テレビ画面には、「早くにげて！」の文字が出ていました。中には「にげろ！」というものまでありました。

1月1日の午後4時過ぎに、石川県能登半島を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生しました。震度7や震度6強という強い地震でした。大津波警報が出され、各地の沿岸に津波が到達しました。輪島市では、大規模な火災が発生し、200棟以上が焼けました。

テレビ局のアナウンサーは、どうして、繰り返し「東日本大震災を思い出してください」と叫び続けたのでしょうか。東日本大震災は、岩手県、宮城県、福島県を中心として、東日本全域に被害が及ぶような文字通り大震災でした。特に、津波の被害が大きかったのです。それで、アナウンサーは、ずっと同じ内容を繰り返し、伝え続けたのです。

被災地では、様々な物資（ぶっし）が必要となります。特に、水と食料は、できるだけ早く欲しいものです。今回の能登半島地震では、地震発生の翌日、1月2日にはパンが被災地に届けられました。迅速（じんそく）な対応です。

なぜこのようなことができたのでしょうか。ある製パン会社では、「被災地への緊急食糧の供給（きょうきゅう）を行うことは、食品会社として社会的使命」と説明しています。この会社は、東日本大震災でも被災地へ即座（そくざ）にパンの供給を行いました。

生徒の皆さんは、数年後には、社会に出て活躍するようになります。一人一人それぞれ様々な職業に就（つ）くことと思います。自分の仕事が人のためになっている、世の中のためになっているとしたら、どうでしょう。実は、仕事というのは、誰かのためになっているのです。そうして、社会というものは成り立っているのです。

まだ、新しい年がスタートしたばかりですが、被災地の方のことを思いながら、自分がやるべきことを1日1日悔いなく進めてください。それが、東日本大震災を経験した福島県民である皆さんの使命です。